

3-1 周辺住民への事前周知【法第11条、第29条】

許可申請を行う前に、工事主は当該工事を行う土地の周辺地域の住民に対し、当該工事の内容を周知する必要があります。なお、周知すべき範囲に住民がいない場合には周知義務が生じないため、下記に記載する内容で周知する必要はありません。

3-1-1 周知する方法

周知する方法は、表3-1のいずれかの方法によることとなっています。工事の内容が確実に伝わるように、できる限り、説明会の開催や書面の配布を行うよう努めてください。

表 3-1 周辺住民への周知の方法

方 法	
1	説明会の開催 ※
2	工事内容を記載した書面の配布
3	工事内容の掲示及びインターネットを利用した閲覧

※表3-2の要件に該当する場合は、説明会の開催が必須となりますので御注意ください。

表 3-2 説明会が必須となる要件

要件	
①	山間部における、河川の流水が継続して存する土地で、高さ15mを超える盛土を行う場合
②	山間部における、地形、草木の生茂の状況その他の状況が①の土地に類する状況を呈している土地で、高さ15mを超える盛土を行う場合
③	①、②の土地及びその周辺の土地の地形から想定される集水地域にあって、雨水その他の地表水が集中し、又は地下水が湧出するおそれが大きい土地で、高さ15mを超える盛土を行う場合

3-1-2 周知する内容

以下の①～⑦の内容について周知を行ってください。

- ① 工事主の氏名又は名称
- ② 工事が施行される土地の所在地
- ③ 工事施行者の氏名又は名称
- ④ 工事の着手予定日及び完了予定日
- ⑤ 盛土又は切土の高さ/土石の堆積の最大堆積高さ
- ⑥ 盛土又は切土をする土地の面積/土石の堆積を行う土地の面積
- ⑦ 盛土又は切土の土量/土石の堆積の最大堆積土量

このほか、工事内容により周辺へ影響を及ぼす事項等は、可能な限り周知を行うようお願いします。

3-1-3 周知結果の報告

周知結果については、「住民への周知報告書(参考様式)」に必要事項を記載して、周知した範囲や内容がわかる資料とともに、許可申請書に添付してください。

3-1-4 周知する範囲

周知する範囲は、盛土等による影響を想定し得る範囲としています。対象となる範囲に、住家や日常で活動が行われている建物がある場合には、周知を行ってください。

表3-3に示す住民への周知範囲の考え方方に応じて、必要な範囲に周知を行ってください。必要な範囲に周知がなされていれば許可申請は可能ですが、盛土規制法以外の手続きについても適切に行ってください。

※周知範囲が広大になる場合や説明会対象者多数の場合は、事前にご相談をお願いします。

※周辺住民とのトラブル防止の観点から、十分な説明を行うと共に、必要に応じて隣接する土地所有者や自治会等に対して個別に説明を行う等、工事に対して理解が得られるよう努めてください。

表3-3 住民への周知範囲

盛土等の区分	周知範囲の考え方	参考図
①平地盛土 ②切土 ③土石の堆積	盛土等の境界(のり尻)から盛土等の最大高さ h に対して水平距離 $2h$ 以内の範囲 (※参考図Lの範囲)	
腹付け盛土	盛土のり肩までの高さ h に対して盛土のり尻から下方の水平距離 $5h$ 以内の範囲 (※参考図Iの範囲)	
①省令第6条第1項において住民への周知方法を規定する渓流等における高さ15メートルを超える盛土 ②渓流等における盛土(①を除く) ③谷埋め盛土(①及び②を除く) ④腹付け盛土のうち、参考図Iの範囲に渓流等の渓床が存在するもの(①及び②を除く)	下流の渓床勾配が2度以上の範囲 (※参考図の範囲)	

※ 平地盛土……勾配 1/10 以下の平坦地において行われる盛土で、谷埋め盛土に該当しないもの

腹付け盛土…勾配 1/10 超の傾斜地盤上において行われる盛土で、谷埋め盛土に該当しないもの

谷埋め盛土…谷や沢を埋め立てて行う盛土

渓流等……渓床勾配 10 度以上の勾配を呈し、0 次谷を含む一連の谷地形の底部の中心線(上端は谷地形の最上部まで含む)からの距離が両側 25m 以内の範囲

3-2 土地所有者等の同意【法第12条第2項第4号、第30条第2項第4号】

工事の許可申請に当たっては、あらかじめ、当該土地の使用及び収益を目的とする権利を有する者全ての同意を得る必要があります。

＜同意を必要とする権利者＞

同意を必要とする権利者とは、工事をしようとする土地の所有権、地上権、質権、賃借権、使用貸借による権利又はその他の使用及び収益を目的とする権利を有する者のことです。

＜同意書に記載が必要な事項＞

- ① 所在地・地番
- ② 地目又は工作物若しくは建築物の種類
- ③ 地積又は工作物若しくは建築物の規模用途等
- ④ 権利の種別
- ⑤ 同意年月日
- ⑥ 同意者住所・氏名

同意書には、本人の同意であることを示すため、同意者の印鑑証明書を添付してください。

※「登記関係一覧表(参考様式)」にて、各権利者及び内容を整理してください。

3-3 技術的基準への適合【法第13条第1項、第31条第1項】

工事の計画は、盛土等に伴う災害を防止するための必要な措置がされたものでなければなりません。これらの措置は、技術的基準に適合する必要があります。

技術的基準は、本手引きとは別に規定しています。下記のホームページをご参照ください。

盛土規制法の運用開始

<https://www.city.kurume.fukuoka.jp/1050kurashi/2080juutaku/3120tochiryo/2017-0222-1735-94.html>

表3-4 政令に規定する技術的基準

政令	技術的基準
第7条	地盤について講ずる措置
第8条	擁壁の設置
第9条	鉄筋コンクリート造等の擁壁の構造
第10条	練積み造の擁壁の構造
第11条	設置しなければならない擁壁についての建築基準法施行令の準用
第12条	擁壁の水抜穴
第13条	任意に設置する擁壁についての建築基準法施行令の準用
第14条	崖面崩壊防止施設の設置
第15条	崖面及びその他の地表面について講ずる措置
第16条	排水施設の設置
第17条	特殊の材料又は構法による擁壁
第18条	特定盛土等に関する工事(第7条から第17条までの規定の準用)
第19条	土石の堆積に関する工事
第20条	規則への委任

3-4 資格を有する者の設計が必要な工事【法第13条第2項、第31条第2項】

資格を有する者の設計が必要な工事が政令において定められています。表3-4-1に該当する工事内容がある場合は、表3-4-2に記載する設計者の資格が必要となります。

この工事を行う場合は、設計者の資格に応じた証明書類を許可申請書に添付する必要があります。
※都市計画法の開発許可によるみなし許可となる場合でも、この工事内容がある場合は、設計者の資格が必要となります。設計者の資格に関する申告書と添付書類を、開発許可申請書に添付してください。

表3-5 資格を有する者の設計が必要な工事

工事内容	
①	高さが5mを超える擁壁の設置
②	盛土又は切土をする土地の面積が1,500m ² を超える土地における排水施設の設置

表3-6 設計に必要な資格、申請に必要な書類

根拠条文		設計者の資格	設計者の資格を証する書類
政令 第22条	1号	大学の土木・建築課程を卒業後、2年以上の実務経験を有する者	<input type="checkbox"/> 設計者の資格に関する申告書 (様式第13号) <input type="checkbox"/> 卒業証明書
	2号	短期大学(3年制)の土木・建築課程を卒業後、3年以上の実務経験を有する者	
	3号	短期大学、高等専門学校、旧制専門学校の土木・建築課程を卒業後、4年以上の実務経験を有する者	
	4号	高等学校、旧制中学校の土木・建築課程を卒業後、7年以上の実務経験を有する者	
省令 第35条	1号	土木・建築の技術に関し、10年以上の実務経験を有する者で、国土交通大臣の認定する講習を修了した者	<input type="checkbox"/> 設計者の資格に関する申告書 (様式第13号) <input type="checkbox"/> 宅地造成技術講習会修了証書
昭和37年 建設省告示 第1005号	1号	大学院等で土木・建築関係を1年以上専攻した後、1年以上の実務経験を有する者	<input type="checkbox"/> 設計者の資格に関する申告書 (様式第13号) <input type="checkbox"/> 大学院に1年以上在学したことの証明
	2号	技術士[建設部門] [農業部門](農業農村工学(農業土木)に限る) [森林部門](森林土木に限る) [水産部門](水産土木に限る)	<input type="checkbox"/> 設計者の資格に関する申告書 (様式第13号) <input type="checkbox"/> 技術士の資格証明書
	3号	一級建築士	<input type="checkbox"/> 設計者の資格に関する申告書 (様式第13号) <input type="checkbox"/> 一級建築士の資格証明書

3-5 資力・信用【法第12条第2項第2号、第30条第2項第2号】

工事の許可申請において、工事主には、工事を行うために必要な資力及び信用が求められます。

なお、過去に盛土規制法に基づく是正措置命令を受け、措置が完了していない場合には、資力又は信用がないものとみなすことがあります。

(必要書類)

【個人の場合】

- ① 住民票の写し若しくは個人番号カードの写し又はこれらに類するもので、氏名及び住所を証する書類
- ② 暴力団等に該当しないことの誓約書(参考様式)
- ③ 資金計画書(省令様式)
- ④ 直近の年度の納税証明書
- ⑤ 残高証明書又は融資証明書(1ha を超える場合または市長が必要と認める場合)
- ⑥ 事業経歴書(盛土等に関する事業経歴がある場合)

【法人の場合】

- ① 登記事項証明書
- ② 役員の住民票の写し若しくは個人番号カードの写し又はこれらに類するもので、氏名及び住所を証する書類(本事業の決定権を持つ役員のみ)
- ③ 暴力団等に該当しないことの誓約書(参考様式)
- ④ 資金計画書(省令様式)
- ⑤ 直近の年度の納税証明書
- ⑥ 残高証明書又は融資証明書(1ha を超える場合または市長が必要と認める場合)
- ⑦ 事業経歴書(盛土等に関する事業経歴がある場合)

3-6 工事施工者の能力【法第12条第2項第3号、第30条第2項第3号】

工事の許可申請において、工事施工者には、工事を完成するために必要な能力が求められます。

原則として許可申請時に工事施工者の能力を審査します。ただし、許可後に入札を行って工事施工者を選定するなど、やむを得ない場合の申請に関しては、事前にご相談ください。

(必要書類)

- ① 登記事項証明書(個人の場合を除く)
- ② 建設業の許可証の写し
- ③ 事業経歴書(盛土等に関する事業経歴がある場合)

3-7 土石の堆積に関する工事の期間

土石の堆積は許可期限が5年以内となっています。これは、盛土や切土などの恒久的な造成工事とは異なり、一時的に堆積することを前提としているためです。

なお、資材置き場での堆積やストックヤードとしての利用などで5年を超えて土石の堆積を継続する場合、許可の日から5年を経過する前に、堆積期間の延長に関する変更許可を受ける必要があります。

変更許可については、【第2章手続編 2-1-2 許可(変更許可)申請】をご確認ください。

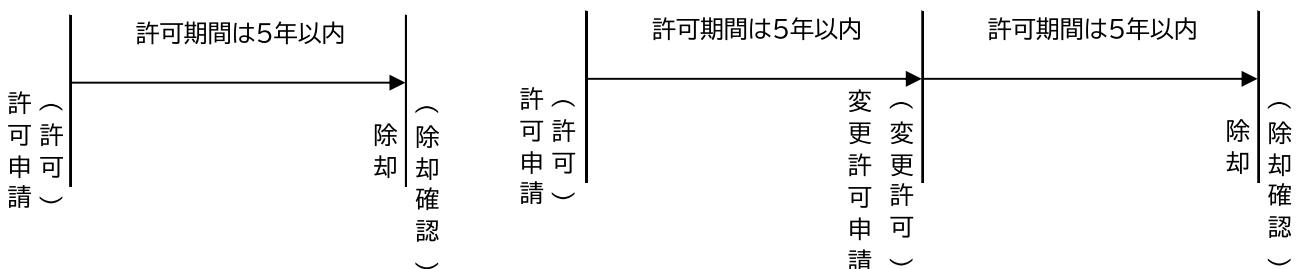


図3-1 土石の堆積の許可期間の考え方

図3-2 土石の堆積の変更許可の考え方

第4章 その他

4-1 規制区域指定の際に行っている工事に関する届出【法第21条1項、法第40条1項】	55
4-2 盛土規制法における違反行為および罰則	57
4-3 改訂履歴	58

4-1 規制区域指定の際に行っている工事に関する届出【法第21条1項、法第40条1項】

盛土規制法による規制区域を指定した際、規制区域内において既に行われている工事で、規制対象の規模を超える場合(表4-1参照)は、その指定があつた日から21日以内に届出書を市へ提出する必要があります。

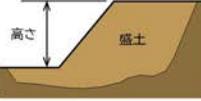
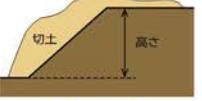
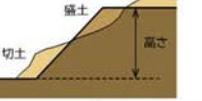
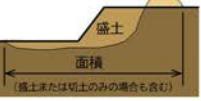
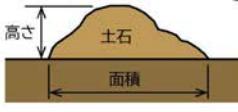
久留米市では、令和8年4月1日に区域指定を予定しているため、令和8年4月22日が提出期限となります。

なお、規制区域の指定前から行っている工事でも、【第1章制度編 1-4 法の対象外及び許可又は届出を要しない工事】に該当するものは届出不要となります。

※令和8年4月1日以降に着手する工事(令和8年3月31日までに着手していない工事)は、着手前に許可申請等の手続きを行う必要があります。

※この届出を行つた後、届出書の記載内容に変更が生じた場合は、変更の届出を行う必要があります。
変更内容によっては許可等の対象となる場合がありますので、工事内容に変更が生じる場合には、事前に窓口へご相談ください。

表4-1 届出対象となる工事の規模

区分	届出が必要な規模の工事				
	届出書のみ提出	届出書+添付図面等を提出			
盛土・切土	①盛土で高さが 1m超 2m超 の崖が生じる場合 	②切土で高さが 2m超 5m超 の崖が生じる場合 	③盛土と切土を同時にい 2m超 5m超 の崖が生じる場合 	④盛土で高さが 2m超 5m超 となる場合 	⑤盛土又は切土をする土地の 面積が 500m超 3,000m超 となる場合(標高差 1m 以下を除く) 
土石の堆積	⑥最大時に堆積する高さが かつ、面積が 2m超 5m超 300m超 1,500m超 となる場合 	⑦最大時に堆積する面積が 500m超 3,000m超 となる場合(標高差 1m 以下を除く) 			

※崖とは、地表面が水平面に対し30度を超える角度をなす土地(硬岩盤を除く)のこと。

また、届出対象となる工事のうち、表4-1の各項目のより大きな規模の数値に該当する場合は、届出書のほかに表4-2に示す図面等を添付する必要があります。

表4-2 届出における添付図面等

No.	図面の名称	明示すべき事項	区分		備考	<input checked="" type="checkbox"/>
			盛土・切土	土石の堆積		
1	位置図	・縮尺、方位、道路及び目標となる地物	要	要		
2	地形図	・縮尺、方位及び土地の境界線(赤枠で囲むこと)	要	要	等高線は2mの標高差を示すものとする	
3	土地の平面図	・縮尺、方位及び土地の境界線並びに盛土又は切土をするときの部分 ・崖、擁壁、崖面崩壊防止施設及び地滑り抑制杭又はガラウドアンカーその他の土留の位置	要	—	植栽、芝張り等の措置を行う必要がない場合は、その旨を付すること	
		・縮尺、方位及び土地の境界線並びに勾配が1/10を超える土地における堆積した土石の崩壊を防止するための措置を講ずる位置及び当該措置の内容 ・空地の位置、柵その他これに類するものを配置する位置、雨水その他の地表水を有効に排除措置を講ずる位置および当該設置の内容 ・堆積した土石の崩壊に伴う土砂の流出を防止する措置を講ずる位置及び当該措置の内容	—	要		
4	現場写真		要	要	造成現場やその付近の状況を明らかにすること	

(提出書類)

○規制区域指定の際に行っている工事

盛土又は切土の場合 :【省令様式第十五 宅地造成又は特定盛土等に関する工事の届出書】

盛土又は切土の変更の場合:【様式第10号 宅地造成又は特定盛土等に関する工事の変更届出書】

土石の堆積の場合 :【省令様式第十六 土石の堆積に関する工事の届出書】

土石の堆積の変更の場合 :【様式第11号 土石の堆積に関する工事の変更届出書】

(電子申請)

※この届出は「ふくおか電子申請サービス」を利用してオンライン手続きが可能です。(令和8年4月開始)

4-2 盛土規制法における違反行為および罰則

盛土規制法では、無許可行為や命令違反等に対する罰則が定められています。また、法人に対しても、法人重科として罰則が定められています。

表 4-2 盛土規制法における違反行為および罰則

違反行為	条項	対象	法定刑		法人重科 罰金
			拘禁刑	罰金	
無許可工事	法第55条第1項第1号 〔法第55条第1項第2号〕	許可を受けずに盛土等に関する工事をした者	3年以下	1000万円以下	3億円以下 (法第60条第1号)
虚偽申請	法第55条第1項第3号	偽りその他不正な手段により許可を受けた者	3年以下	1000万円以下	3億円以下 (法第60条第1号)
立入検査拒否等	法第56条第4号	立入検査を拒み、妨げ、又は忌避した者	1年以下	300万円以下	300万円以下 (法第60条第3号)
報告徴取拒否等	法第58条第5号	報告徴取で報告をせず、又は虚偽の報告をした者	6月以下	30万円以下	30万円以下 (法第60条第3号)
命令違反 (監督処分)	法第55条第1項第4号	監督処分(法第20条第2項から第4項〔法第39条第2項から第4項〕)に違反した者	3年以下	1000万円以下	3億円以下 (法第60条第1号)
命令違反 (改善命令)	法第56条第3号	改善命令に違反した者、法第27条第1項の規定による届出に対する勧告に違反した者	1年以下	300万円以下	1億円以下 (法第60条第2号)
技術的基準違反	法第55条第2項及び第3項	技術的基準(法第13条第1項〔法第31条第1項〕)に違反して工事の設計をした者(設計図書を用いない又は設計図書に従わないで工事を施行した場合は工事実行者) ※上記の違反行為が工事主等(工事主、又はその代理人、使用人その他の従業者)の故意によるときは、その者を含む	3年以下	1000万円以下	3億円以下 (法第60条第1号)
中間検査・完了検査違反	法第56条第1号	完了検査(土石の堆積の場合、完了確認)、中間検査を申請せず、又は虚偽の申請をした者	1年以下	300万円以下	300万円以下 (法第60条第3号)
定期報告違反	法第56条第2号	定期報告をせず、又は虚偽の報告をした者	1年以下	300万円以下	300万円以下 (法第60条第3号)
特定盛土等規制区域における工事の届出違反	〔法第57条〕	工事の届出をしないで工事を行い、又は虚偽の届出をした者	1年以下	100万円以下	100万円以下 (法第60条第3号)
基礎調査のための土地の立入り拒否等	法第58条第1号	基礎調査における土地の立入りを拒み、又は妨げた者	6月以下	30万円以下	30万円以下 (法第60条第3号)
区域指定時の工事の届出違反	法第58条第3号	法第21条第1項〔法第40条第1項〕の規定に違反し、区域指定時に実行している工事について届出しなかった、または虚偽の届出をした者	6月以下	30万円以下	30万円以下 (法第60条第3号)
擁壁等に関する工事の届出違反	法第58条第4号	法第21条第3項〔法第40条第3項〕の規定に違反し、擁壁等に関する工事について届出しなかった、または虚偽の届出をした者	6月以下	30万円以下	30万円以下 (法第60条第3号)
公共施設用地の転用の届出違反	法第58条第3号	法第21条第4項〔法第40条第4項〕の規定に違反し、公共施設用地の転用について届出しなかった、または虚偽の届出をした者	6月以下	30万円以下	30万円以下 (法第60条第3号)
標識掲示義務違反	法第59条	許可を受けている旨の標識を掲示しなかった者		50万円以下	50万円以下 (法第60条第3号)
軽微な変更の届出違反	法第61条	軽微な変更の届出をせず又は虚偽の届出をした者		30万円以下※1 (過料として)	

※1 法第61条「軽微な変更の届出」に違反した場合は「罰金」ではなく「過料」が科せられる

4-3 改訂履歷

本手引きの改訂履歴を示します。